

「ヨセフは神に従った。」 マタイ1章16～25節

イスラエルがローマに占領され、ユダヤ人でないヘロデ大王がローマの支配下でユダヤの王とされました。謀略によって王位を取ったヘロデは、「ユダヤ人の王としてお生まれになつた方」（マタイ2・2）と聞いて恐れ、「ベツレヘムとその周辺一帯の2歳以下の男の子をみな殺された。」（同16）のです。

世が世ならば、と言われると、ヨセフはダビデ王家の系図、生粋のユダ族です。当時のユダヤ人は、非常に信仰深く、神の超自然の御手により、出エジプト、バビロン捕囚からの解放、そして、セレウコス朝シリアからのマカバイ戦争（B.C. 167-165）の勝利による独立などの経緯を、不信仰に対する神の怒りと回復と受け留めていました。マカバイ記については、旧約聖書外典の「マカバイ記」に詳しく記されています。凄まじい宗教戦争でした。そのようにして、信仰を守らないと神の罰を受けるという教訓が彼らの信仰に定着していました。

そのようなヨセフの婚約者マリヤが妊娠していることが分かります。マリヤは、誰とも関係していないと言いますが、そんなことはあります。律法に厳しい社会ですから、不倫による妊娠が分かれば石打の刑で殺されます。選択肢は3つあります。

- ① マリヤの姦淫を告発し、石打の刑にすること。
- ② 婚約を解消すること。但し、妊娠の理由をヨセフが負うこと。
- ③ 妊娠を黙認して、結婚すること。

結婚しても、マリヤが他の男と関係を持ち、実の親がいて自分は裏切られたという思いの中で過ごさなければならないという苦しみがあります。平穀な結婚生活を過ごせる気がしません。ヨセフは、②を選ぶことにしました。

そんな夜、天使に語り掛けられたのでした。夢だからと無視することができました。人は、現実に語り掛けられても無視をすることがあります。問題が大きくなつても、対応せずに放置することができます。どんな対応にも、責任が伴います。私は、そのような人々を見守り執り成す中で、問題に対処できない、或いは対処して失敗をし、苦しんできたり、人々のことを理解することができました。しかし、対処するということは、神を信じなければできないのです。失敗をしても、神がどうにかしてくれます。逃げるのは、神を信じていないのです。

「その胎に宿っている子は聖靈によるのです。」（20）というありますことを信じるか否かです。

私自身は、大学院2年の時、ぐつすりと寝ていて、「主がお入り用なのです。」（マタイ21・3）という声を聴き、直ぐにひざまずいて、「主よ。私を導いてください。」と答えました。「もしだれかが何か言ったら、『主がお入り用なのです』と言いなさい。すぐに渡してくれます。」、こういう時は、神がかりなのでしょう。反対はされないのです。私は、その後、疑問も無しに主に従つて来ました。もちろん、その後に多くの反対や攻撃がありました。

ヨセフは神を信じたのです。不合理を乗り越えて、神を信じる方を選んだのです。信仰とは打算ではありません。ヨセフは、マリヤを信じ、神からの語り掛けを信じたのです。そして、神から使命を託されるのは、信仰をもつて歩む人なのです。

犠牲を払うとか、苦労をすることを嫌がる人が増えています。家族を持つならば犠牲を払わなければ、支えることはできません。ヨセフは、ヘロデの迫害を逃れて幼い妻子を連れてエジプトに逃げなければなりませんでした。マリヤは16歳くらいだったでしょう。産後間もない妻子を連れて見知らぬエジプトへの逃避行はどんなに辛いものだったでしょう。もちろん、神は守ってくださいます。ただ、それを信じて神に従い進んでいくことは真実な信仰と勇気と決断がいるのです。

「永遠の神の命令にしたがい、預言者たちの書を通して今や明らかにされ、すべての異邦人に信仰の従順をもたらすために知らされた奥義の啓示によって、あなたがたを強くすることができる方」（ローマ16・26）とあるように、信仰の従順こそ、奥義であり、神が信仰者に望んでおられることです。

ヨセフは、その後、聖書には殆ど出ません。結婚時は30歳くらいだったと思われ、50歳前後で亡くなつたとされています。大工として働き、「両親は、主の律法にしたがつてすべてのことを成し遂げたので」（ルカ2・39）という忠実な信仰者でした。誠実かつ平凡な男性が、主に選ばれ、そのお言葉に従い、非凡なことを成し遂げたのです。私には、男性の模範のように思われます。

1. 信仰に生きるキリストの弟子の養成

主の弟子は状況に左右されず聖霊に聞き従い、神を信じ人を信じて人々の救いと解放をもたらす。十字架に死んで神と共に生きるとは、自分と人々の罪からくる咎を覚悟し信仰と希望と愛とを持って福音の祝福の中に生きることである。キリストの弟子の養成こそ教会の使命である。

2. 真理と祈りと讃美に満ちた信仰生活の指導

聖書の教え、真理は人を自由にする。祈りは問題や悩みを解決し、神の御心を確認する。讃美は癒しと喜びと力を与える。教会はそれらを教え指導し、互いの交わりの中で模範を造り出していく。

3. キリストを頭として愛によって結び合わされた共同体の形成

教会には多種多様な人々が神によってこの世から召し出されてくる。この信者を整え、神への奉仕という使命を果たすように導くには、キリストの弟子として十字架を負い主に従う指導者層が確立されなければならない。整えられ愛し合い一致した教会こそ神の栄光が現され成長する。

4. 隣人に対する愛に基づいた執り成しと伝道の実践

神を愛する人は人をも愛し、行いを伴う信仰を持つ。真理を知らず罪と咎によって苦しんでいる人々を愛し、執り成し、福音を伝えることによってこそクリスチヤンは成長し、祝福される。

5. 地域と社会に貢献する魅力的な教会員の歩みと家族形成

教会と教会員の活動・事業・啓発運動を展開し、社会に影響を与えながら、同時に愛し合う家族を形成し、接する人々に福音を現していくことが、日本のリバイバルに必要であると私たちは信じる。

今週の聖書

マタ 1:16 ヤコブがマリアの夫ヨセフを生んだ。キリストと呼ばれるイエスは、このマリアからお生まれになった。

1:17 それで、アブラハムからダビデまでが全部で十四代、ダビデからバビロン捕囚までが十四代、バビロン捕囚からキリストまでが十四代となる。

1:18 イエス・キリストの誕生は次のようにあった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人がまだ一緒にならないうちに、聖霊によって身ごもっていることが分かった。

1:19 夫のヨセフは正しい人で、マリアをさらし者にしたくなかったので、ひそかに離縁しようと思った。

1:20 彼がこのことを思い巡らしていたところ、見よ、主の使いが夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフよ、恐れずにマリアをあなたの妻として迎えなさい。その胎に宿っている子は聖霊によるのです。」

1:21 マリアは男の子を産みます。その名をイエスとつなさい。この方がご自分の民をその罪からお救いになるのです。」

1:22 このすべての出来事は、主が預言者を通して語られたことが成就するためであった。

1:23 「見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」それは、訳すと「神が私たちとともににおられる」という意味である。

1:24 ヨセフは眠りから覚めると主の使いが命じたとおりにし、自分の妻を迎えたが、

1:25 子を産むまでは彼女を知ることはなかった。そして、その子の名をイエスとつけた。

Mat 1:16 And Jacob begot Joseph the husband of Mary, of whom was born Jesus who is called Christ.

1:17 So all the generations from Abraham to David are fourteen generations, from David until the captivity in Babylon are fourteen generations, and from the captivity in Babylon until the Christ are fourteen generations.

1:18 Now the birth of Jesus Christ was as follows: After His mother Mary was betrothed to Joseph, before they came together, she was found with child of the Holy Spirit.

1:19 Then Joseph her husband, being a just man, and not wanting to make her a public example, was minded to put her away secretly.

1:20 But while he thought about these things, behold, an angel of the Lord appeared to him in a dream, saying, "Joseph, son of David, do not be afraid to take to you Mary your wife, for that which is conceived in her is of the Holy Spirit.

1:21 "And she will bring forth a Son, and you shall call His name Jesus, for He will save His people from their sins."

1:22 So all this was done that it might be fulfilled which was spoken by the Lord through the prophet, saying:

1:23 "Behold, the virgin shall be with child, and bear a Son, and they shall call His name Immanuel," which is translated, "God with us."

1:24 Then Joseph, being aroused from sleep, did as the angel of the Lord commanded him and took to him his wife, 1:25 and did not know her till she had brought forth her firstborn Son. And he called His name Jesus.